

【新着CD紹介】

『Fin』 10FEET/演奏 エバ-カミュージック (CD290 テ)
 『OT WORKS』 岡崎体育/演奏 リ-ミュージックル-ベル (CD290 オ)
 『ようちえん・ほいくえんでうたうた』 日本コロムビア (CD990 ヨ)



<ピックアップ!>

『My school song 1・2』 (株)エフエムキャッチ (CD440 マ)
 Pitch FM 開局 15 周年を記念して製作された、碧南市内の7つの小学校の校歌を集めたCDです。校歌のほかに、校長先生がそれぞれの学校について語る学校の「記憶と記録」も収録されています。
 みなさんは、小学校の校歌を覚えていますか？
 これを聴くと、懐かしい日々を思い出せるかもしれません。市内の図書館3館で所蔵しています。ぜひご利用下さい。

休館日

7月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

■ は本館の休館日です

※7月8月は月末休館日がありません

7月のギャラリー

『図書館を使った調べる学習 コンクール入賞作品展』

期 間：7月3日(火)～31日(火)
 ※ギャラリーの展示は17時までです

編集後記

特集では、子ども向きの本を中心に紹介していますが、どれもなかなか読み応えがあります。幼いころに読んだ絵本なども、大人になってから読み返すと、また違った感想をもったり、大人だからこそ感動できるものもたくさんありますので、オススメです！(お)

けやきどおり通信 (No.298)

編集・発行 碧南市民図書館

〒447-0057
 碧南市鶴見町1-70-1
 Tel: (0566) 41-0894



けやきどおり通信



2018年7月 ~NO. 298~



※『科学道 100冊ジュニア』(理化学研究所/発行)のブックレットを参考にしています。



『みんなでつくる1本の辞書』

飯田朝子/文 奇藤文平/絵

福音館書店 **子ども (815ミ)**

鉛筆は「1本」、ホームランも「1本」柔道でも「一本!!」と数えますね。日常でなにげなく使っている「本」という数え方が、何を数えるときに使われ、どんなイメージで使われているのかを探ります。350種類もの「1本」ばかりを集めた本。

『このあいだに なにがあった?』

佐藤雅彦、ユーフラテス/作
 福音館書店 **子ども・ちしき(Eコ)**

並んだ2枚の写真から、その間に何が起きたのかを推理してみましょう。
 知的好奇心をくすぐる絵本。

『世界一素朴な質問、 宇宙一美しい答え』

ジェンマ・エルウィン・ハリス/編

河出書房新社 **子ども (033セ)**

「夢はどんなふうにも生まれるの?」「惑星はなぜ丸いの?」「数字は永遠につづく?」などなど、子どもたちから寄せられた100個の質問に、世界的な研究者たちがわかりやすく丁寧に答えます。

『つまんないつまんない』

ヨシタケシンスケ/著 白泉社

子ども (Eヨ)

「つまんない」って呟いていませんか?では「つまんない」ってどういうことだろう?

大人もついつい考えこんでしまうような、ゆるいようで哲学的な絵本。



「動物の目している世界」

ギヨーム・デュフラス/著

創元社 **子ども** (481ド)

仕掛けのあるページをめくると、動物や昆虫たちの目に世界がどう見えているかがわかります。

実は近眼のネコ、超高性能な目を持つワシ、目が退化しているミミズなど、見え方・感じ方の違いを確かめてみましょう。

「世界一うつくしい昆虫図鑑」

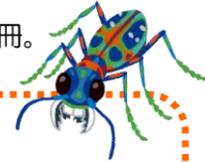
クリストファー・マーレー/著

宝島社 (486セ)

洗練されたデザインと、まるで宝石のような美しい色をまとった昆虫たちを、自然の色のままで紹介します。

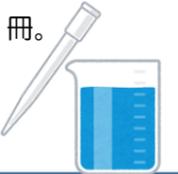
昆虫採集が環境にもたらすメリットなどのエッセイも収録。

全米でベストセラーとなった1冊。



「ピーカーくんとそのなかまたち」 うえたに夫婦/著 誠文堂新光社(407ビ)

理科の実験でお馴染みの“ピーカー”を始め、様々な実験器具を紹介した1冊。見たことも聞いたこともない器具たちも、可愛いイラストや説明とともに読んでみると、少し身近に感じられるかもしれません。個性的な器具たちのマニアックな情報が満載です。



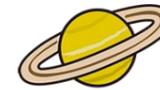
「フィボナッチ」

ジョセフ・ダグニース/文 ジョン・オフライエン/絵 さ・え・ら書房 **子ども** (Eオ)

子どもの頃から数字のことばかり考えていたレオナルドは、周囲から「のうなし」と呼ばれていた。しかし彼はのちに、花びらの数や葉っぱの生え方にも見られる「フィボナッチ数列」を発見することになる。けして「のうなし」ではなかった数学者の物語。

「宇宙 ~そのひろがいをしよう」 加古里子/ぶん・え 福音館書店 **子ども** (440ウ)

山や雲、そのもっと先にはいったいどんな世界があるのだろう。いまだ謎に満ちている「宇宙」について、その広がりを探ってみましょう。



「宇宙においでよ!」 野口聡一/著 林 公代/文 講談社 **子ども** (538ウ)

お調子者の子どもだった野口聡一さんは、いかにして宇宙飛行士となったのか？実際に宇宙空間を体験した著者が、宇宙ステーション、スペースシャトル、宇宙飛行士の訓練についてなどを語ります。



「星の使者」 ピーター・シス/文・絵 徳間書店 **子ども** (Eシ)

大地は平面で天動説が常識とされていた時代、「地球は丸く、動いている」という地動説は異端とされていました。しかし、イタリアのガリレオ・ガリレイが生み出した「遠めがね」(望遠鏡)は、誰も見たことの無い星の世界を映し出したのです。

「じかんが どんどん」 ジェームズ・ダンバー/さく 評論社 **子ども・ちしき** (Eダ)

目で見ることも、触ることもできないもの…それは時間。世界ができる前から、そしてこの先もずっと続いていくであろう時間についてをユーモラスに教えてくれる知識絵本。

「ひとにぎりの未来」

星 新一/著

新潮社 **文庫** (BFホ)

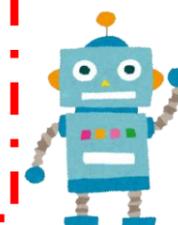
SF小説の第一人者が描き出す、便利だけどちょっと怖い未来社会を描いた短編小説。

「ロボット・イン・ザ・ガーデン」

テボラ・インストール/著

小学館 **文庫** (B933ロ)

近未来のイギリス。自宅の庭で壊れかけた旧型ロボットを発見した34歳のベンは、その作り主を探すためにアメリカに渡る。ダメ男と少年とロボットの友情物語。



「楽しい動物化石」 土屋 健/著 芝原暁彦/協力

ネイチャー&サイエンス/編 河出書房新社(457タ)

太古の時代、地球に生きた個性的で不思議な生き物たち。その化石標本の写真をもとに、古生物について解説します。化石めぐりの旅をどうぞ!



「ひとしずくの水」

ウォルター・ウィック/作

あすなろ書房 **子ども** (435ヒ)

蛇口からぼたりと落ちるひとしずくの水。それは水蒸気、氷、雲や雪など、様々なものに姿を変えて世界をめぐる。

終わりのない水の旅から、自然の面白さや、科学的なものを見方を知ることができます。

「もしも地球がひとつのリンゴだったら」

デビッド・J・スミス/文 スティーブ・アダムス/絵

小峰書店 **子ども** (404モ)

「もしも45億年の地球の歴史を1年に縮めたら…」生命の歴史、エネルギー、食べ物、銀河系など、壮大なスケールの事柄をスケールダウンしてわかりやすく解説します。

想像するのも難しい「大きなもの」を、目に見えて、手で触れられるようなものと比べてみましょう。

「シャクルトンの大漂流」

ウィリアム・グレル/作

岩波書店 **子ども** (Eグ)

南極大陸横断の探険へ乗り出したシャクルトンたちを待ち受けていたのは、過酷すぎる大自然だった。氷の南極海に取り残された彼らの運命は？絶望の淵にあっても、決して希望を捨てなかった男たちの物語。

「森へ」

星野道夫/文・写真

福音館書店 **子ども** (295モ)

南アラスカからカナダにかけて広がる原生林をひとり行く著者が目にしたものは。命の息吹を感じさせる写真も魅力的な1冊。

「絵ときゾウの時間とネズミの時間」

本川達雄/文 あべ弘士/絵 福音館書店 **子ども** (481エ)

大きな動物と小さな動物。体の大きさが違って心臓は同じく1つだけ。その心臓が1回鼓動を刻む速さ、1度呼吸するのにかかる時間などは動物によって違います。体の中に流れる時間の違いをわかりやすく解説した本。

新書版『ゾウの時間ネズミの時間』本川達雄/著、中央公論社(481ソ)もあります。

